

びわこ文化公園都市将来ビジョン検討委員会 第2回会議 議事要旨

1. 開催日時および場所

令和4年9月7日(水) 10:00～

滋賀県立図書館大会議室

2. 議事要旨

(1)開会 滋賀県新駅問題・特定プロジェクト対策室 松田主席参事

(2)議事

議事進行は、委員長により行われた。

- ① 議事(1)第1回検討委員会まとめについておよび(2)アンケート結果報告について
事務局より、資料に基づいて説明を行った。

【村上委員長】

ありがとうございます。

今日の主な議論は、次第の括弧3番になると思いますので、この資料の1から3の委員会のまとめと、あとアンケート結果の概要、結果報告につきましては、一緒に確認させていただきましたが、ここで、何かお気づきの点とか、例えば資料2は皆様からいただいたご意見なので、これをご覧になってこの意見は私の言った意見と違うとか、ここじゃなくてこっちのカテゴリーじゃないとか、あるいは前回はこういうこと言ったけれども、今回これを見てここをもう少し付け加えたいと思うようなこととかあればお願いしたいと思います。あと、今回新しい資料として資料3のアンケート結果のまとめ、二つのアンケートから見えてきた認知度が低いとか、公共交通というのと情報発信が弱いのではないかとといったようなアンケート結果も出てきたという話ですが、これらと前回の委員会で皆様よりいただいたご意見等を比較して、何か気づきとかございましたら自由にご発言いただければと思いますがいかがでしょうか？

【築地委員】

築地です。おまとめありがとうございます。

いろいろ現実が浮き彫りになったアンケート結果ですし、それから議論についても丁寧にまとめていると思います。

一つだけと言いましょか、指摘をした上でコメントしたいのが、資料2の最終ページに、「環境」というキーワードが、浮かび上がってきた。キーワードの整理から明らかになったことの三つ目に「環境」というものを挙げています。

将来世代の責任ということは、私が前回発言をした内容ではありますが、この将来世代の責任問題ということと、環境という新たな課題とここで書かれていますが、これがストレートに浮き彫りになるものでは必ずしもないだろうと思います。もちろん環境も重要な将来世代への責任の一つ、次に果たすべき課題の一つということは当然ですが、ここにストレートに環境というものを三つ目のキーワード、キーポイントとしてまとめるというか、出していくことについては、一定議論が必要ではないかと思いました。

私自身は環境、特にゼロエミッションとか、ゼロカーボンということを滋賀県が重要な政策課題として抱え、掲げていることは承知していますので、そういう大きな文脈の中で環境ということを挙げること自体には反対ではないですが、前回議論したところからストレートに出てくるキーポイントではないと思うので、ここはみんなで議論をした上で、フォローするならする、しないならしないで判断する必要があると思いました。

【村上委員長】

ありがとうございます。

いただいたご意見は、資料4ですね、少し先に進んでしましますが、資料4の2ページですね、ここにかかります。のちほどぜひその部分を議論していただきたいと思いますが、この現行ビジョンに対して何を追加するかということで、その下の吹き出しのところには、将来世代の責任と書いてあります。これは並列で書かれていますが、築地委員のご意見としては、もっとこの将来世代の責任というのは、もっと包括的な視線であって、その中には例えば環境ですとか、SDGsですとか、それ以外にも実は負債を、後に借金を残さないとか、具体的な話とか、インフラ整備も実はその一つかもしれないですが、それを全部大きく含むという意味では、この辺のあり方についてはぜひ後ほどの議論の頭出しをしていたと理解いたしましたので、いかがでしょうか。その視点はまた後ほどに議論させていただくことでよろしいですか。

はい、ありがとうございます。

いずれにしてもご意見としては、今回のまとめの中でこの環境というのは少しストレートというか、若干狭すぎるのではないかと御意見をいただいたので、このところは、資料4の議論のときにぜひ聞かせていただければと思います。

【岡井委員】

取りまとめどうもありがとうございました。今までどういう議論がされてきたのかということがわかって、非常にわかりやすいと思いました。

その中で少し気になった点ですが、交通について書かれているところで実績として挙げられているのが、例えば南草津駅からの連節バスの運行というので、南草津駅から立命館大学へのバスのことを指されているかと思いますが。確かに整備されているのですが、このびわこ文化公園とほとんど関係がないと思います。というのが、大学でバスを降りてそこから歩いてくるというのは非現実的です。そのエリアをかなり幅広にとれば確かに実績と言えるのかもしれません。しかし、今回アンケートの説明でもありましたように、バスが30分に1本とか、施設間の移動が全然できないとか、基本は車でないと来られない、車で来られるのが8割ぐらいでしたね、そういった交通面で課題に挙げられている点が改善できたのかという点では、立命館大学行きのバスができたところで何の解消にもなっていないと思います。こういうのを書くことで、これだけ実施されているのだなと見えてしまうのもよくないと思いました。

【村上委員長】

ありがとうございます。

私が後で指摘しようと思っていたことをおっしゃっていただき、ありがとうございます。この振り返り資料1の3ページにある検討未実施のところに、交通関係のことが何も書かれていないが、それはどうなのか、まさにそこですよ。大学行きのバスだけで、実施と言えるのかというところは、この検討会で問題意識を共有すべきところではないかということです。貴重なご意見をいただきありがとうございます。資料1のこの振り返りの中で、検討課題が未実施のところは、交通に関しての政策はまだ十分でないという意味では未実施に入ると思われますので、よろしくお願いします。

他に何か現時点でご意見いかがでしょうか？また後ほどの改定ポイントにつきましてはいろいろとご意見あるかと思います。よろしいでしょうか、これらのことにつきましても、後ほどの議論の中でおっしゃっていただいて結構です。

それでは議事を先に進めます。本日の一番重要なところですよ。次回に向けて、改定案をまとめるにあたって、今日は改定案の骨子を検討会で共有するということです。3番の将来ビジョン改定の方向性につきまして、まずは事務局より案の説明をお願いします。

② 議事(3)将来ビジョン改定の方向性について

事務局より、資料に基づいて説明を行った。

【村上委員長】

ありがとうございます。おそらく資料の4が、次回改定案の骨子、委員の原案概要に近いものです。ただし、まだまだ流動的な部分、今日議論が必要な部分があるかと思います。

整理をしますと、基本的には改定ビジョンのあり方についても、現行ビジョンの改定ですので、構成骨格としては1枚目にあるように、まず視点があって、その視点のもとにどういう将来像を設定するか。将来像の中にはこれまでのビジョンを引き継いでいくものと、さらに時代に合わせて変えていくべきものがあるかというお話です。将来像にぶら下がる形で、それぞれの取組の方向性をリストアップといいますか、上げていくのですが、これまでも短期中長期の振り分けが不十分だったとか、具体性に欠けたとか、あるいは主体が明確でなかったのでも機能しなかった部分もあるので、その辺の反省を踏まえながら、この方向性も次回の改定案には決めていくということ、重要なのが支える仕組みとして新たな仕組み、強化した仕組みを仮称ですが未来創造会議として設定してはどうか、ということです。それと重要なのが、やはりPDCAサイクルを回していくための指標設定が大事であるということ、このあたりが今日の論点になるかと思います。

ということで、ここは皆様からご意見いただいたところですが、まずは視点、検討の視点について、それから将来像、これは議論を少し整理しなければいけないと思いますが、この辺りからご意見をいただければと思います。先ほど築地委員からビジョンについて関連するご意見をいただきましたので、もしよければ築地委員、議論の皮切りということで、この辺りからご意見をいただければと思います。例えば、先ほどの将来世代への責任という視点というのが、ほかの視点と並列で入るのか、あるいはさらにもう一つ上にかかるのか、いくつか考え方があるかと思いますが、その辺りはいかがでしょうか？

【築地委員】

ありがとうございます。

このまとめのところで、上位プランとの整合性の話、上位計画と実施計画の話というのが、資料2の2ページの青いところに書かれていましたけれども、今事務局のご説明を伺いながらまず感じましたのは、このびわこ文化公園都市というくくりをどうするかという問題を議論しようとしているのか、それともびわこ文化公園都市というものが背負っている、そこに背負わせている課題、要するに県として解決すべき問題。そのモデルケースとして、びわこ文化公園都市があるという順序でもものを見るべきなのか、ここを頭の中で整理しきれずに聞いていました。つまり、もう1回、今お話したことをまとめますと、びわこ文化公園都市をどうするという問題を議論すべきなのか、それとも滋賀県、あるいは近畿圏全域として、どうするのかという、問題のモデルケースとして、このびわこ文化公園都市を議論するのか、切り分けを意識的にしていくことが大切ではないかと感じています。

例えば、この持続可能な社会の形成というものを入れるというのは、これは本当に地球全体の問題でもありますし、それから当然県の問題でもあります。持続可能な社会の形成ということを考えてときに、何がこのびわこ文化公園都市において、例えば実証実験とし

て使えるのか、それこそビジョンがないと、ただキーワードを並べているだけという感じになってしまう気がします。

そういう意味でこの公共交通の問題、つまり脱車という問題、それから情報発信という言葉では、実は正しくない、理解の共有といった方がいいのですが、理解の共有が可能かどうかということが、この持続可能な社会を形成していく上でキーポイントの二つになるだろうと思います。持続可能な社会というのは、簡単に言えば脱車社会です。あるいは脱大量消費エネルギー、脱大量エネルギー消費社会ということです。これが持続可能な社会です。それから、それを支えるために自分たちは誰なのか、どういう問題に直面しているのかとか、どういうことが自分から見えない他者にとっての喜びなのかとか、そういったことを知る能力というものが、我々のこの持続可能な社会というものを支えるだろうと理解します。

ですから、そういう意味でこの公共交通の問題をここで解決する、あるいは社会で何が起きているかを皆がよく理解できるような情報のプラットフォームをここで作るということが、滋賀県の未来豊かな未来に向けて、真に豊かな未来に向けて大きな意味を持つのではないかという理解をしています。

まとめますと、この「びわこ文化公園都市将来ビジョン」というものは、滋賀県の大きな問題を解決するためのテストケース、あるいは実験場として、どんどん活用していこうじゃないかというまとめ方になるのがいいのではという気がしています。

少し加えますと、それに加えて滋賀県というのは比較的人口稠密な、あるいはその京阪神に直結した都市型のエリアと、それから非常に典型的な過疎地、中山間地域が人の集まりになっているという意味で、特徴的な県でもありますので、その両方の問題を解決していく、両方の問題にしっかりと目を配りながら、解決していくということも、持続可能な社会ということを考えていく上で重要な論点だと思います。

【村上委員長】

ありがとうございます。

ある意味非常に論点がすっきりしたかと思いますが、そもそものびわこ文化公園都市のあり方をしっかりともう1回見つめ直すのが、この改定案の大きな趣旨だと思います。そうすると、今の御意見は、まさにそのまま今回の改定のこの文章が来ると思うのですが、最初にくるところ、滋賀県全体の将来世代への責任において解決すべき問題を、このびわこ文化公園都市を先端の場として、あるいは実験の場合は、実験都市として位置づけるということを明言できるので、前回のビジョンがどのような書きぶりだったか、今日はよくわからないところですが、おそらく何かそういう書きぶりはできると思います。そういう位置づけになるのではと思います。

事務局に確認をしていただきたいのは、その部分と、上位計画としては滋賀県全体の滋賀県基本構想、全体のマスタープランありますよね、その中でこのびわこ文化公園都市がどのように位置づけられているかということとの関連性もあるかと思います。

そもそもこのびわこ文化公園都市の設立経緯等からしても、おそらく趣旨としては間違っていない方向性であると考えられますが、そこを一步踏み込んで、将来世代への責任という明確な命題を挙げた上で、もう一步踏み込んでビジョンとしてまず位置づけるべきだと。その下にこの検討の視点が来ればよいという、そういったご理解でよろしいでしょうか。

他にいかがでしょうか、仲川委員お願いいたします。

【仲川委員】

瀬田東学区自治連合会の仲川でございます。今お話を聞いていますと、地域としては何の話をしているのかさっぱりわからないような状況で、最終的にどういったものを決めるのかというところが見えてこないところがあります。

もっと細かく例えばバス停を作る、あるいは瀬田駅あるいは南草津駅からどのような形で文化公園へアクセスするのかとか、そういうことを私は今日決めていくのかなと。もっと文化ゾーンの活性化であるとか、横の繋がりであるとか、そういうことをするにはどういうことをしたらいいのかということを決めていかれるのかなと思っていたのですが、何か話が地域として非常に難しい方に行ってしまった、私が話すような内容になっていないというのが実感としてあります。何でアンケートを取られたのかということ、それは地域の人たちあるいは地区の人たちが、このびわこ文化ゾーンに対してどう思っておられるかということアンケートを取られた。その中で、例えばイベント力が弱いとか、それから公共交通が充実していないであるとか、駐車場が十分に取れていないとか、あるいは知名度を上げるためのPR活動がまだまだできていないよとか、インターネットで多く発信することも必要だと思います。こういう知名度的なものも含めて、できていないのが現状だと思います。その現状に対して、どのような形でアプローチしていくのかということを決めるのではないのでしょうか、その辺をお聞きしたいのですが。

【村上委員長】

進め方について事務局より説明をお願いいたします。

【事務局(松田)】

ありがとうございます。

今日の検討委員会で議論いただきたいのは、冒頭委員長からもお話がありましたが、ビジョンの改定にあたってまずは大きな方向性を決めていきたいと思います。決めるにあたって、

当事者たる施設23施設の意見を1回目で共有して、委員の皆さんからのご意見もいただきました、今日は、1回目で浮き彫りになった課題に対して、こういう方向性で次、3回に進めていきたいと思いますということについてご意見をいただいて、3回目に最終案にご同意いただきたいというのが改定のスケジュールです。

【仲川委員】

そうしますと、先ほど築地先生からお話があったように、その中で各施設、それぞれ存在はするけど、どういう役割を担っていくのか、それがどういう意味合いを持っているのか、それは社会情勢の変遷によって、あとは利用者目線のアンケートで、こういうものが足りない、そこから出てきたものについてこういう大枠で議論を進めて、最終ビジョンを改定していきましょうというのを決めれば、今日が2回目、12月に3回目を予定していますが、その時点でさらにブレイクダウンしたものについての議論ですから、交通と聞いてバス停の話までブレイクダウンできない。我々の方はまだそこまでイメージしていませんけれど、具体的なアクションについては、びわこ文化ゾーン自体が滋賀県のお手本となるようなものにしていくという方向を、それで行くのか、それとも違うのかという方向を決めていくという会議でよろしいですか。

【事務局(松田)】

まさにおっしゃるとおりで、時代の変遷でびわこ文化公園都市の役割、昭和40年代後半に土地を購入し、そこから土地開発があって、昭和が終わり、平成になって、今年12月には滋賀アリーナも完成し、箱物は一段落。今回決めていただいて議論を進めていければと考えておりますのでよろしくをお願いします。

【村上委員長】

ありがとうございます。

仲川委員にお伺いしたいのが、将来像のところいくつか従来のキーワードがあります。それから今回、公共交通、情報発信といったようなキーワードも、この将来像に加えてはどうかということを議論しているところですが、前回確か両自治会の方々からご意見いただいたのは、自治会活動の維持が非常に難しくなっている、そういったお話をいただいたかと思います。

そういう意味で、例えば5つの将来像のうち、支えるというところが、命と健康を支えるという書き方なのですが、ここに例えば暮らしに関わる、隣には歴史と暮らしを紡ぐと書いてありますが、これはまた別のどちらかという文化的な話で、決して現在の皆様の暮らしを支えるということではないわけです。むしろ、福祉医療、こういったことは生命と健

康を支えればこちらに含まれるのですが、これまであまりこの時代はその自治会活動をもっと持続可能にしないと将来まずいという話だったかと思うのですが、その辺仲川委員あるいは清水委員にご意見いただきたいのは、この将来像のうち、命と健康を支える場がこれでいいのかどうか、あるいはここにもう少し暮らしに自治会活動を支えるための暮らしを支える場、こういったニュアンスを加える方がいいのか、このあたりお伺いしたいのですがいかがでしょうか？

【仲川委員】

5つの将来像の中に、県内外の人々が交流するという場がありますので、交流というのも一つのキーワードになってくると思います。それから今教えていただいたように生命と健康を支える場、確かに自治会員離れということで、組単位で例えば10軒が抜けてしまったとかいう自治会も中には出てきています。そういったことを考えると、びわこ文化ゾーンを支えていく、その地域の人たち、こういった人たちの底辺が揺らいでいる形に今なっています。そのことによって、学区の中でもこう言われてきている。

瀬田東学区の例を挙げますと、今まで62%の自治会加入率があったのですが、私6年目になるのですが、58%だから、年で1%ほど落ちてきているわけです。だからびわこ文化ゾーンがあることによって、地域の人たちのその暮らしを支えてもらって、次回活動に参加しやすい環境というのもこの中から見出せないかなと。それが見出せると地域としても非常に有効な手段として、このびわこ文化ゾーンの会議にも参加させてもらえるし、それによって簡単には自治会員が増えるというふうには思いませんけれども、そういうことが一つのステップになって、ひよっとしたら自治会活動も活発になっていくかもしれない。ただ、コロナがあるので、なかなかその前に進まないというのがありますけれども、なんとかして地域としてはそういったものをこの会議と繋げていきたいです。そのところを考えていただけたらなと思います。

【清水委員】

南笠東学区の清水でございます。

仲川委員さんのおっしゃったとおりでございます、町地域での事業までというのは、滋賀県だけではない、全国的に見みられるところでございます。

文化ゾーンについての協議というビジョンでございますけれども、僕は夢物語になってはいけないと思います。確かにその考えでいくと、いかにこの場所を、県民市民、いろんな方達が利用しやすくする。また行き来しやすくしたい。ということは基本だと思えます。

いろんなことを考えてもと思えますけれども、民間でありますと、つい先日も、私も淡路島のニジゲンノモリですか、立ち寄りしましたが、すごそうでした。広大な場所で、ゲーム感覚で遊べる。でも金額は入場するのに4000円以上です。子供から大人まで多くの方たちが

ここまで来られているのかと思うと、そういったものを作ることによって、一時的かもわかりませんが、人が集まってくる。

お土産物等のたくさんお店もございましたし、多くの方たちが行列されていました。これも平日でしたけども、そういうようなものをやはり考えていくことも大事なかと。

ただ、このびわこ文化ゾーンについては、確かに大学から福祉ゾーン医療関係等々ございますけども、皆さんがここに行きたいなと思えること。皆さん言われたように、ここに来るのにはほとんどが自家用車。このアンケートに載っていますが、77%ということにびっくりしました。

確かに滋賀県でも南部の北の方、北東において、私らも知らないところもたくさんございますけれども、これだけの広大な交通網の良い場所で、来ていただけない、知られていないのも一つかなと思います。知名度は、情報発信でも言っていたが、その情報発信したところに行きたいな、見に行きたいな、何かちょっと行ってみたいなという気持ちにさせる何かを作っていかなければいけないと私は思います。

特に地域の人たちがまずはここへ来ることが優先。そのためには、帝産バスでのアンケートにもございますように、瀬田からここまでは来るけども、ここに寄るか、買い物ついでにちょっと見に行こうか、それでもいいです、来ていただけることになれば。そういう手段を考えて。特に駐車場は土日混んでいるということで、公共交通でしたら増便ができるということですが、多分公共交通も収益が上がりなかつたらやってくれないと思います。補助金を出せば別ですけども。

また、ご存知のように、サービスエリア、パーキングエリア、大津サービスエリア、このパーキングエリアも時間帯、朝方まで満車というのがずっと看板に出ています。なぜかというと、通行料金の料金設定の関係で、ここにたくさん集まるということで、新聞にもこれは載っていましたが、これも解消するには駐車場を広くする。ここにありましたように計画がございます。

先生がさっき言われたような交流の中で、パーキングエリアの連携、そして平野南笠線という交通網の整備とさらに高速バスのバス停、それによって民間の公共交通がそこに来るということも考えられますので、利便性のいいことを考えていくことも大事です。

ともかく、やはり行ってみたいなと思わせるような何かを考えていかなければならないと思っております。夢を持たないのは駄目だなと私は思います。

【築地委員】

清水委員のお話はそのとおりだと思いますが、そこに対応する話ではなくて、一つ前に戻らせていただくと、考えていただくような環境とか文化とか、それから仕組みがないとうまくいかないだろうと思います。ですから、自治というのが非常に重要なキーワードに

なってくると思っています。加えてまちづくりです、住民主体のまちづくりということだと思えます。

それをこの将来像の中に、うまく5つの将来像というもののの中に組み入れていくということが必要だと感じます。さらに仲川委員がおっしゃったことを私なりに解釈しますと、委員長から命と健康を支えるところに暮らしを支えるというのを加えるのはどうかというご提案がありました。私は大賛成です。さらに言うと、仲川委員がおっしゃったことそのものですけれども、地域の地元自治といいましょうか、住民自治といいましょうか、それを高めていくことが必要です。ここでどういう面白いことをできるかということもそうですし、それから交通体系をどうやったら改善できるかという問題も住民を中心として、ここをどうやったらもっと暮らしやすく、移動しやすくできるかということをも自分たちの自治の問題として、目の前の問題というのを解決することも見えてこない、誰も乗ってきませんよということをおっしゃっていたと思います。

例えば、この公共交通の問題に引きつけて考えますと、バス停をどこに置くか、それからバス停へのアプローチをどうやって設定するかなど、地元の人じゃないとわからないことがいっぱいあるわけです。地元の人だからこそわかることっていっぱいあるわけです。ところが、相変わらずそのバス停の設置については、国交省マターでいちいち国にお伺い立てないと作れない、路線もそういう構造になっています。

それを住民主体で、このびわこ文化公園都市にあるいろんな施設と、それから自分たちの生活と結びつけて路線を張るとしたら、こういうことはできないかなというようなことを、バス事業者と住民が一緒になって考えてもらうような、そういう場作りと、それを支える仕組みというものすごく大事だと思います。端的に言うと、バス停の設置とか、バス事業に対するお金の出し方を県なり市なりが実験的にでもやっていくことを我々求められていると思いますし、そのための土台となるビジョンですね。こうした方がいいよというビジョンを共有したいと思います。

もう一つさらに具体的に話させてもらいますと、県の交通戦略課、今日来られていませんけれど、滋賀県交通戦略課から龍谷大学が受託している公共交通の将来像の問題に関する調査に直接関わっておりまして、帝産交通それから近江鉄道のバス事業の財務内容ですとか、経営戦略ですとか、そういったことも含めて、詳しく調査をしたことがあります。2年前と3年前です。それで、はっきりわかっているのは今バス事業者にあれしてくださいこれしてくださいって、いくらお願いしたとしても、そういうものに対応できるような経営体力がありません。ギリギリでやっておられます。

ですから、彼らに何とかしてくれとお願いするより前に、自分たちに何ができるかということを考えないといけない状況にあります。地元の自治というのはそういうことだと思います。バス会社が何かしてくれるのを待つのではなく、じゃあ明日免許返納するとした

ら、自分たちはどうしたらいいの、どうしようかということを考えるような、文化を作っていくわけです。

このエリアの皆さん方にはそういう、その文化的資質というものが僕はあるように思います。それをぜひ発展させていっていただきたいなと思います。皆が誰も直面するであろう問題に対して、対応できるようになってないというところに問題があるということを経験したいですね。

【清水委員】

今先生が言われたとおりでございまして、私が思うのには、確かに駅からここまで来る公共交通というのは、タクシーもありますが、ほとんどバスで、本数も少ないです。そのことによって今言われたように、その資格を持った人たちがいらっしゃったら、どこでもその仲間で行けるような取組も、利用者がまた増えるのではなかろうかと思います。

【村上委員長】

ありがとうございます。

今いただいたご意見は、この改定のポイントの4ページの、仮称未来創造会議のところ、会議にやはりこの2自治会の方々も、参画できるとか、今おっしゃったのは例えば一つの例として、交通部会があるというような、そこでは自治会の方と公共交通事業者、行政の方、あと関連する方が、そこで部会を組んで、この文化公園都市の中で今何が問題で、ここにぜひバス停を作ろうとか、ラストワンマイルが問題になっているからここは何かもっと違う何か導入できないかとか、乗り合いで何かできないかとかそういったことを議論する場が必要であるというような、そういった御理解でよろしいですか。

【清水委員】

ちょっと一つだけ補足させてください。

今、バス事業のお話をしましたけども、福祉関係で考えた場合も、例えば足腰が弱い人がタクシーに乗りました、県立美術館行きたいですと連れてきてもらっても、その入口ではなく駐車場のところでお客さんを下ろさざるを得ないわけです。その時に運転手さんが無線で、足の悪いお客さんを美術館の正面まで乗せていけるように、ゲートのチェーンを下げられるようにするとか。

また、アンケートの中にもございましたように、公園の中での移動距離が長いということが書かれていたことから考えると、公共交通にお願いするにしても、どこかから支援資金を捻出した中で、巡回移動バスとまでは言いませんが、中型の5、6人か8人ぐらい乗れるようなものを巡回させるような仕組みも大事かと思います。

【岡井委員】

築地委員が言ってくださったことに少し補足という形になると思いますが、五つの将来像のところ、まず暮らしを支えるという観点が必要であることに対しては、私も賛成です。暮らしを支えるのか生活を支えるのか、コミュニティを支えるのか、何かそういう言葉、コミュニティみたいなものの方が、先ほどの自治とか、住民の方もちゃんとこの中で生活をしていますよという意味でいいかとも思いますが、いずれにしてもそういう言葉を入れることがまず必要かと思います。

また、アップデートという形で、持続可能な成長へ挑戦する場という言葉を入れていただいているのですが、違和感があります。持続可能な成長ですが、成長というと何かどうしても大きくなるような、拡大志向の感じがしますが、それは築地委員が最初に言ってくださった持続可能な社会というのは、脱車社会や脱大量消費社会というようなことですが、私ももちろん賛成していますけれども、そういった観点から見たときに持続可能な成長という言い方でいいのだろうか。本当は拡大や成長ではなく、究極を言えばみんなが幸せになるために、いろんなことに挑戦する、挑戦というキーワードはいいなと思っていますが、成長ではなく何だろうというあまりいい言葉が思いつかないのですが、持続可能な社会へ向けた挑戦なのか、そういうニュアンスの方がいいかと思います。もう成長という時代は終わったのではないかと。

あと、2点目で確かにこれはビジョンということで、少し抽象的なことが多く、住民目線から見た場合に具体的なところに落ちていないかという意見は最もだと思います。この中で、例えば交通が重要な課題として、今までも挙げられてきたかと思いますが、路線バスの利便性向上に向けた取組の実施や、公共交通を使った公園アクセスの向上に向けた検討という、これだけでは本当に何をやるのだろうかという感じがいたしますし、例えばこれだけですと、先ほどの南草津駅から立命館大学のバスができましたというだけでも、十分に実施したでしょうとなりますが、それは住民の方から見れば何も向上されていないし、このびわこ文化公園を利用する方にとっては、何が変わったのかということだと思います。どこまで具体的なことを書けるのかというのはまた議論があるかと思いますが、先ほど言っていただいたように、びわこ文化公園はかなり広いので、例えば巡回するバスを出すというのでもいい手法の一つではないでしょうか。

先ほど路線バスの話が出ていましたが、路線バスは事業者が異なるのでいろいろなことが無理ですと、そういった時に、バス会社が考えてくださいと言ったところで、多分体力的におそらく無理だろうというような意見も先ほどいただきました。そうすると、まずこういった路線バスにすると多くの方が利用できて、一番便利ではないかというようなことは、広域行政組織である滋賀県で案を提案していただき、その中で本当にその路線が利用者にとって便利なものなのか、その辺りは社会実験という形になるかと思いますが、その次に

そこを誰が運営するのか、運営委託のような何か具体的に繋がるような提案をどんどんしていく必要があるのかなと思います。

バス以外に自転車も、一つのツールとして考えたらいいかと思います。世界的には自転車レーンの整備が進んでいて、特にヨーロッパ中心ですけれども、そういう社会になっています。滋賀県の琵琶湖にはビワイチという、そのためにわざわざ自転車で来られる方々も結構いらっしゃいますので、自転車で休憩できる場所まで作ると、わざわざ立ち寄ってくれるのではないのでしょうか。先ほど地図で琵琶湖からの距離をみると、ぱっと立ち寄るには少し無理があるようですけれども、ここは自転車の人のために、こんなものまでありますよということまですると、わざわざ来てくれるのかなと思います。

自転車以外の緩やかな交通手段として、キックボードみたいなものもありますし、レンタルサイクルなどと合わせて、いろいろなモードの乗物を上手く活用できるようになれば、それを龍谷大や立命館大でこのびわこ文化公園や駅など、どこで乗り捨ててもいいということをするれば、バス路線を十分補完できる可能性もあるのかなと考えております。

【村上委員長】

まず将来像の方ですが、その持続可能な成長へ挑戦、この成長はまさに私も違和感を覚えたところですよ。成長というよりは、むしろ、持続する場ぐらい思い切った表現ですね、おそらく持続可能、サステナブルディベロップメントということで、どうしても持続可能な成長とSDGs自体がそれを日本語に直訳してしまうと、どうしてもそうになってしまうのですが、成長というよりは、むしろ持続が大事であるということですので、ここは成長というのは再考する必要があるとのご意見です。

ありがとうございます。それと、暮らしを支えるそれとコミュニティを支えるやはりコミュニティを支えるというのが大事であるということ。もう暮らしの基盤でありますコミュニティが生命と健康を支える場というのは、一つの福祉医療に関しての将来像ですので、むしろもう一つ別建てで、暮らすコミュニティについて、もう一つ将来像には別のものがあるのではないかと思います。ぜひご検討いただきたいという御意見だと思います。

それから取組のところ、例えば公共交通についての取組を書く場合も、具体案が必要であろうということです。これは事業者がおられることもあって、ここをどこまでということもあると思いますが、例えば愛知県春日井市にある高蔵寺ニュータウンという4万人ぐらいのニュータウンでは、既に数年前から交通体系に関して、社会実験として自動運転車両を実験的に動かして、そこでオンデマンドでラストワンマイルに困っている方々に対して、使っていただけるような仕組みをいろいろ試行錯誤されている。最先端のところは、そういったところもあります。また、各地で具体的に真剣に議論されているところです。

おっしゃるとおり、自転車それからキックボード、こういったものも最近電動のものも普及してきましたので、坂道の多いこの地域でも十分普及は可能かと思えますし、そういっ

たレンタルで多様なモビリティの確保ということもあるかと思います。この点も、漠然とした書き方というよりも、もう少し踏み込んだ書き方が必要だという御指摘をいただきましたので、そこは次回の改定案の取組内容の書きぶりについてぜひ議論をお願いしたい。先ほど具体的な取組に落としづらいという反省点がありましたので、そこを踏まえて、難しいところですが、その3番の反省点と主体の明確化です、これは誰がやるかというので、交通事業者がやるというのは難しいということですから、先ほどの築地委員ご提案のように、例えば交通とか、自治会とか特定の問題についてそれぞれ関係者が集まって、それを具体的に実施していく部会のようなものをぜひ4番に位置づけて、そこでこの取組とその実施体制等、かなり具体的にわかるように書くということも必要ではないかというのが、委員からいただきました御意見から見えてくることだと思います。ご検討いただければと思います。

他にいかがでしょうか。今の方向性ですと、いただいた案の中で、まず前段として県全体の課題解決のための社会実験の場として、びわこ文化公園都市を再位置づけするという点で、そこには必ず将来世代への責任という大きな課題を前提として掲げるということ。そこでの検討の視点としては、1・2・3に加えて4つ目の視点、将来像に関して、これは7つ・8つ、1・2・3・4・5・6・7・8つぐらいの姿勢の将来像ですね。これは将来像の数が増えることは決して悪いわけではなく、いいことだと思いますので、将来像を少し加えていただき、一部変更していただくということと、取組の方向性に関しては、短期中期、中長期の書きぶりとしては、より具体的に、とにかく目の前の問題を解決しないと誰も乗ってこないということで、その環境については、より具体的に書いていただきたいということ。

最後、4番目のその取組についても、この未来創造会議については特に異論はなかったようですが、その未来創造会議だけで終わるのではなくて、各目先の問題解決を視野に入れるような具体的な部会の明記でしょうか。これはその前の取組の方向性と連動させるということかと思いますが、目を向けられるとか、その利用に関して何かしらインセンティブがあるとか、いろいろ議論があるかもしれませんが、踏み込んだ何かしらの提案があると、この指標設定に関してもう少し議論があるのかなと思いますが、いかがでしょうか？

【清水委員】

一つ支えるという中に、生命と健康というのを書いていますが、その中で一つだけ災害に対する取組の中には体制作りというのは書かれておりますけども、その言葉が全然出てきません。各施設では取組をされていると思いますが、ここに来ることによって、体験ができたり、近々に地震があったりとか、昨日はたまたま台風がそれでしたが、また台風が発生するであろうと思いますが、いろいろな災害についての取組、また避難、大津市はここを指定しているようですが、そんな体験や研修ができるような、そういう施設があってもいいかなと思います。

【岡井委員】

まず指標の評価ですが、5つの将来像、もしかすると将来像が増えるかもしれません。

例えば、先ほど清水委員からご意見がありましたように、災害発生時にどうするのかという観点、まさに命を支える将来像に対するものと思います。住民と、びわこ文化公園に来られている来訪者各々が、例えば何かの災害時にどこに避難できるのか、避難訓練をどれだけやったのかとか、どのくらい周知されているのかというようなことも指標の一つとして、設けるようなこともできるかなと思います。一方で、先ほど検討されている指標をいくつか提示して下さったかと思いますが、マスコミに取り上げられた数というのは、行政的には大事かと思うのですが、将来像がマスコミに取り上げられることはもちろん悪いことではないですが、それが指標というのは少し疑問に思いました。

【築地委員】

あまりこだわらない方がいいのではないかなと思います。半分余談ですけども、指標についてコメントしたいのですが、その前に少し戻らせていただいて、この2ページの現行ビジョンで5つの将来像と書かれている下に交通、公共交通と情報発信追加と書かれていますね、この図の意味がよくわからないなと思いながら見ていたので、質問をしたかったです。アンケートとか議論の結果として公共交通の問題と情報発信の問題があることは確かに共有されたと思うのですが、これをこのように書くことにどういう意味があるのかということを確認させてください。

元マスコミ屋なのであえて言うのですが、マスコミに取り上げられることをあまり喜ばない方がいいと思います。これからの時代は特にですね。

ただ滋賀県のマスコミは非常に脆弱ですので、滋賀県発信の情報が全国版、あるいは海外のマスコミにどれだけ取り上げられるかということはすごく重要な指標ですから、これは意識されるといいと思いますが、県内版にいくら取り上げられたとしても、それは自家撞着的な評価に過ぎません。

【事務局(松田)】

築地委員からご質問ありました、2ページの公共交通、情報発信にどういう意味合いがあるかということについてですが、ポンチ絵にありますように、人が支えているということの一つ。公共交通、情報発信というのは、現行で言います5つの将来像、それぞれ交流、創造のカテゴリーごとに縦に将来像を当てるということで、交流にも続く必要な要素ということで、公共交通、情報発信の整理をさせていただいた。

【築地委員】

ありがとうございます。

そのご説明で良いかと思えます。つまり5つの将来像という縦軸に対して、横軸あるいは横串として、優先的に解決すべき課題というものを挙げていると。それがプラットフォーム的な要素を持っているということだと思えます。その上で先ほどの岡井委員の自転車の御議論に強く共鳴するところですが、その立場から公共交通と括ってしまうことに対しては、むしろ何か問題を狭めているように感じます。

移動の自由とか、あるいは誰もが自由に移動できるプラットフォームということだと思います。車椅子、杖をつけてでも自由に移動できることも含めて、誰もが移動できる、移動のプラットフォームを作ることが、この公共交通という言葉に変えて置いておかねばいけないことかと思えます。

それから情報発信も同じことで、これは誰か主体があって誰かに対して発信するという概念を意味するわけですが、そうではなく、情報理解の共有という形で、先ほど申し上げたと思えますが、相互に理解できる、あるいは自分が伝え、発信したいことを発信することができる、そういうプラットフォームを作り出していく必要があるとした方がいいのではないか、未来に繋がるのではと思えます。つまりマスコミの時代じゃなく、SNS主体の時代ということです。

その上で、指標について意見を言わせていただきますと、例えば文化芸術を創造する場という将来像に対する指標というのは、どういうものが考えられるかという、今までであれば美術館への来場者の数が何人から何人に増える、何年までに何をしますというような、そういうKPIを立ててPDCAを回すという言い方だったと思うのですが、もっと夢のあるものであってほしいと思えます。例えば、びわこ文化公園エリアを拠点として活動している芸術家の数といったような、そういう指標、それをKPIとしておいて、それをどうすればより活力のある繋がりとして出せるのかということを考える。そんなことをイメージします。

同じく歴史と暮らしということと言うと、例えば郷土史家の方が何人いらっしゃるのかということは、すごく重要なKPIになるのではという気がします。そんな感じでブレイクダウンしていきたいですね。

【村上委員長】

まず、この将来ビジョンについては、先ほど御意見いただいたとおりですが、公共交通や情報発信というのは、これらを横断する横串で、ある意味その将来像は現状の問題でもあり、将来像を実現していくためには、共通してこれらは意識して取り組まなければならないということがある。

それが誰でも自由にどこにでも移動できるようにするということと、お互いがお互いの理解を共有できるという、この2つですね、具体的には、例えばそれがMaaSであったりW

eb3であったりということですが、そこを大きく包含するこの2つの横串は、これまでのビジョンにはないいいところです。

ここをうまく工夫をする形で、将来像は将来像で挙げていただいていいと思うのですが、この2つの横串の部分の共通基盤、プラットフォームを資料では人が支えていますけど、何かしらこういったイメージで、これを適切な形で位置づけていただく、将来像というのは、何か別に新たに加える形ですよね。

新たなところについては、書き方に工夫が要するという御提案でした。何か未来を創造するためのエンジンみたいな、そういうことですね。

それと、指標の設定についても貴重なご意見いただきまして、夢のある指標であって欲しいという、まさにそのとおりで、入り込み客数といったようなことよりも、むしろ活動する芸術家の人数とか、あるいは発表されたアート作品の点数とか、何かそういうこと、あるいはさらに共通理解との関係も含めると、発行されたNFTを誰がどれくらい持っているか可視化するとか、そういったことも将来的には出てくるかと思いました。

あと、もう一つ思ったのですが、共通してびわこ文化公園都市全体のこういった様々なその将来像に対する取組ですが、可視化として一つ言えるのが、滋賀県自体がまちのコインを実際に導入されたと思いますので、できればこういうNFTといいますか、こういったトークンをその潤滑油として使えないか、ご検討いただけないかと思います。びわこ文化公園都市全体のトークンの流通量みたいなものが、全体としての活性化の指標にもなるかと。これからの時代では、おそらくどんどん一般化していくのではと考えられます。そのあたりもぜひご検討いただければと思いました。

【岡井委員】

今トークンというツールの話になりましたので、発言させていただきます。ここを社会実験的な場として、モデル的に良い地区にしていこうという動きがある中で、デジタル化を使って可能になることは多いと思います。先ほど委員長が言われていた自動運転はもちろんその一つですし、築地委員が先ほど言われていた、歩行が困難な方が来られた時に、例えばゲートを上げて、タクシーが入れるようにするというのも、人が対応するよりは、監視カメラを見て何かブザーが鳴れば勝手に上がるとか、ITの力を借りているんなことができると思いますので、そういうものをツールの一つとして積極的に使うこともあるかと思っています。

【築地委員】

源内峠遺跡についてコメントさせていただきますと、今お話がありましたとおり、大津京のあった時代の国内最大の製鉄遺跡だということがわかっています。これについて大事な点は、源内峠の遺跡が復元されて、当時の現物は5mぐらい地下に埋まっています

が、上に等身大といいたまうか、同じ大きさの復元模型が作られて展示され、解説も本格的なものになっています。それをされたのが、瀬田東学区の地元住民の方々です。

それを教育委員会が追認する形で資金が出てきて、それが残っているということになっています。つまり、これは郷土に関する研究と、それを復元する住民活動というものが具体化してあのようになった本当に稀有な事例の一つです。

ですから、それは例えば、県内外の人々が交流する場や、歴史と暮らしを紡ぐ場ということに対応した指標として、住民主体による文化活動や歴史の勉強、学習活動などが、どの程度行われているかを指標化することができるだろうと思います。その指標について、最後に一つだけコメントさせてほしいのですが、先ほど事務局から出てきた人口の増減、バスの便数、マスコミの露出度など、いずれもいわゆるアウトプット指標というもので、ここまでやりましたよという指標なわけです。なぜマスコミの露出度がアウトプット指標かということ、プレスリリースの数に対応して、マスコミに載るだけのことだということとして、マスコミが独自に取材した分についてアウトプット指標にはカウントできないと思いますけれども、いずれにせよアウトプット指標を中心にものを考えていると、発展性に欠けると思いますが。

アウトカム指標は、こうなったらいいなというものを指標として立て、それを実現していくためにどうすればいいのかということを考えるということ。アウトカム指標というのは、繰り返しますが、こうなったらいいなという夢がそこには含まれます。

そこは大事です。例えば、先ほどの芸術家の数ということを経指標として立てたら、芸術家を増やそうとする、どうやったら増やせるかと考えます。芸術家が過ごしやすい空間作りとか、養成のため、育成のためのものとか、それから素人が技術を勉強するとか、そういった場作りみたいなことに発展していくわけで、指標を立てることが、エンジンになるような、そういうものを工夫して作っていかなければならないし、それは住民の未来創造会議のような当事者による会議体が随時作っていくことでいいだろうと思います。こういった会議体のような、上から目線でやっているような会議体で指標を作ってしまうと、それは地に足のついたものにならない、あるいは夢を含んだものにならないと思います。

【村上委員長】

この指標設定については、アウトプットではなくて、そのあと夢に基づくアウトカムであろうということですね。ありがとうございます。

【石山委員(代理)】

県土木交通部の立場で、技監の黒澤 が委員に就任しておりますが、私は代理で出席しております。黒澤から事前に言われていたこと、それから今日お話を伺いしまして、私が感じたこととあわせて、一言だけお話ししますが、びわこ文化公園都市の近隣地域にお住

まいの皆様方、自治会の皆様方が、暮らしの中で身近に感じていただくエリアでなければならぬというのが一番重要なことだと思っています。

遠方から来られる方を呼び込むのも大事、またここの各施設で日常勤務されている方とか、利用されている方とかの相互交流というのも大事と思いますが、周辺の自治会の方々の関わりが、またそこのお住まいの方々の将来をいい形で支えていくような存在になればいいのではと思っています。そのためにも、各施設を、隣同士の施設を何とか繋ぐようなルートであるとか、門を開けるということであるとか、あるいはまず各施設を横断的に繋いで歩いていけるような横断道であるとか、自転車が使えるようにとか、何かそういったものが将来構想にあればいいのではということ黒澤は申しておりました。

また、そういうものが実現できましたら、先ほど先生がおっしゃったようなトークンのようなものも、利用促進に繋がると思います。

【村上委員長】

まさしくいただいた御意見は、先ほどの議論の中で、将来像の中の暮らしやコミュニティを支えるという視点がないので、それを加えたらいいのではないかという方向性とも合致いたしました。どうもありがとうございます。

【松田委員】

どうしても事務局側の視点を持ってしまいましたが、今日は改定に向けてのスタートかなというところで、具体的どころがまだまだ見えてこないというご指摘はそうかなと思いますが、言っていただいた意見でこれから肉付けしていくのかなと思っていました。

今、石山委員もおっしゃったように、せっかく文化都市という広いエリアにいろんな要素が入っている。皆さんが自分のものだと思ってもらえるようなビジョンにならないといけないなと思いました。その意味では、指標ですとか、将来像のところ、自分がどう関わるのか、どう変わるのかということがわかりやすい形で出ていく必要があると改めて思いました。

これが出来たときから、おそらくここではその実験的なこと、新しいことができるという絵を書いていたのかなと思いますが、そういう意味では、先ほどのデジタル化や、環境の問題でもそうですが、他でやっているところもあるかもしれないけど、いろんな新しい動きがある。それをみんなで取り組んでいるということが見えてくると、そこに喜んで自分たちも住んでみようかなとか、何か面白い公園があるなとかいう形で、おのずと人が来ると、例えば公共交通も充実してくるとか、何かいい循環にもあればいいなとすごく思っています、ビジョン自体も、ちょっとワクワクするようなものがあって、先ほど先生おっしゃったみたいに挑戦というような響く形の内容になったらいいなと思いました。

【村上委員長】

こういった新しい試みが見えるようになるには、その共通理解としてのプラットフォームの最前線というか、そもそもびわこ文化公園都市のサイトに行こうと思ったら、滋賀県の説明サイトしかなくて、あとズラッと並ぶのは全部文化公園のサイトです。それと、エリア内の美術館、あるいは図書館、こういったホームページ、ここにはありますが、そもそもないです。だから、ここでこんなことやっていますというカレンダーがあって、そのカレンダーをポチッと押すと今日は何やっています、ここでこんなことやっていますというのが見えるぐらいであると、そういった共通理解と興味を起こし、さらに魅力向上、交流人口も増えるというようなことも、地元の方にも当然その効果があります。今日はここで、どこで何をやっているのか、カレンダーをポチとしたときに、ここで何をやっているのかわかると、じゃあちょっと行ってみようか、行ってみようかとしたときに、自由に移動できるツール、何か移動の手段があって簡単に行けるというのがおそらく望ましい姿かと思いました。

【仲川委員】

私達の子供の時代ですけど、スラムダンクが始まりました。あのとき、私の子供2人共がバスケットボールをやったとか、阪神が強くなるとなんか巨人のファンだけでも阪神ファンになるとか、このにわかファンを作るというのが一つ重要なポイントかなど。具体的にはレイクスターズですね。結果的にはあまり成績は良くないですが、例えば、こういうバスケットはまだまだ発展途上かもしれませんが、オリンピックで女子は準優勝もしていますので、そういった意味ではバスケットはまだまだこれから伸びていくという過程にありますので、県としてこのレイクスターズというのを応援していく。

例えば、サッカーだったら京都はパープルサンガ、大阪だったらガンバ大阪、こういったものを盛り上げることによって活性化していくパターンがあると思いますが、レイクスターズが十分に活かしていないということがあります。こういったレイクスターズをもっと県あるいは市がバックアップする、そのことによってにわかファンを掴んで、県立体育館でレイクスターズの試合があったら、キャパが5,000人ぐらいあるということですので、そこに人がたくさん応援に行けるような状況をつくる。その横に多目的広場もできるそうですので、そういったところも潤ってくるような状況が起きてくるのではと思います。

だから、まずレイクスターズをうまく利用していく、知っている人がおられますので、例えば県や市にどういう形で何がして欲しいのかというのは、次の会議のときまでに聞いておきたいと思いますので、それは次に期待していただけたらと思います。

あと、自治会としてお願いをしたいのは、一般の方、それから県外の方、それから地域の方にも情報をいろいろと共有していただくのもいいのですが、PRしていただくのもいいのですが、例えば自治会であるとか、自治連合会であるとか、あるいは自治会の中の末端の団体、例えば子供育成会の行事グループというのがありますが、そういったところに声

をかけていただいて、こういう行事をするから一緒にやりませんか。学校にも、そういったところに校外学習の場所として選んでもらえませんか、そういうような活動の仕方もあると思うのでそれも考えておいていただけたらと思います。

【村上委員長】

地域スポーツの活性化と、それから地域イベント等を自治会あるいはその支援を行ったところに声かけという点ですね、まさにその具体の取組に具体の踏み込みをしていただきました。どうもありがとうございます。

他に何かご意見等ありますでしょうか、いかがでしょうか？

かなり時間も過ぎておりますので、それではこの辺りで、この改定案についての御意見御議論については以上とさせていただきますと思います。

草案が相当定まってきたかと思います。皆様熱心にご議論いただき、ありがとうございます。本日の結果を事務局にまとめていただいて、それから今日ご欠席の委員の方々にもご意見をいただいた上で、新ビジョンの案を次回に向けて作成いただき、新しいビジョンを委員の皆さんにお示しできるようにさせていただきますのでよろしくお願いします。

それでは議事のその他ということですが、何かございますか。

それでは本日の議題はすべて終わりましたので、事務局にお返しいたします。

【事務局(松田)】

委員長ありがとうございます。次回は3回目ということで、12月半ば頃に次の委員会を予定しています。それまでの間、今日いただきました貴重なご意見を整理し、委員長と調整をした上で、新しいビジョンの案をお示しさせていただきますと思いますのでよろしくお願いします。

【村上委員長】

そこで一つだけお願いですが、私の印象としては、3回目の会議に来て、いきなりビジョン案についてこれです、では議論してくださいというのではなく、少し余裕を持って早めに新ビジョンを作ってください、あらかじめ委員の皆様にご覧いただき、いろいろ十分にチェックを入れて、ここは足りないとか、ここはもっと付け加えるべきとか、具体案を書き込んだものをお持ちいただくぐらいの状況にさせていただけると助かるとは思いますがいかがでしょうか？

【事務局(松田)】

まさしくおっしゃるとおりだと思います。できるだけ早く、できれば11月の半ばぐらいまでには23の各施設のご意見を踏まえた上で、お示ししたいと思います。

文化公園から情報提供があります。すこしだけお時間をお願いします。

【びわこ文化公園】

文化公園の山中と申します。よろしく申し上げます。

時間も過ぎていきますので、端的に言いますと、議論で清水委員から、美術館のタクシーの件について、一般的な声の話として挙げられたのかなと思いますが、びわこ文化公園では、美術館、図書館、埋蔵文化財センターへタクシーで行かれることに関しては、体の不自由な方がおられましたら、タクシーや自家用車でそのまま構内に入っていただくような形で対応させていただきますので、誤解があればと思い、修正させていただきます。入れるのは、東ゲート側ですが、守衛が立っていますので、そちらに言っていただきましたら、入っていただけます。

(3) 閉会